

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年8月31日現在

今月の重点活動

■いちご 岐阜いちごマーケティング調査を実施

8月6日、イオンリテール(株)各務原店において、JAぎふ、JA全農岐阜の担当者らと共に、管内いちごの市場評価と実需者ニーズを把握するため、いちごマーケティング調査を行った。

イオン担当者からは、「岐阜いちごは、値ごろ感があり、濃姫、美濃娘とも良く売れており、食味は美濃娘の方が人気がある。年内は、200g入りの少量パックの売れ行きが良い。3月上旬頃に過熟果のクレームが多い」などのコメントをいただいた。

また、今後の売れるアイテムとして、「濃姫と美濃娘を食べ比べできるセット品の販売、年末年始等の化粧箱出荷を増やして欲しい」との要望があった。

農業普及課では、今回の調査結果を踏まえ、いちごの品質管理やアイテムの開発などについて、支援する予定である。(園芸産地支援第一係・渡辺新一)



【マーケティング調査の様子】

活力ある新産地づくり

■秋冬ブロッコリー 配苗を開始

8月26日、JAぎふブロッコリー生産連絡協議会が行う委託管理苗の配苗が始まった。今年度の天候は、晴天で高温の日と降雨による日照不足の日を繰り返しているため、育苗管理も困難な状況ではあったが、概ね順調な生育が確保できている。

農業普及課では、天候を考慮したかん水量や液肥散布、防除の適期作業を指導し、健苗育成を支援してきた。9月17日まで、育苗ハウスから生産者のもとへ順次苗が配られる予定である。今後は、定植作業等栽培管理の徹底を図る予定である。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【配苗作業の様子】

売れる農畜産物づくり

■飼料用米 本巢地域水田農業担い手協議会現地研修会

本巢地域では、今年から飼料用米として多収性品種「みつひかり 2003」に取り組んでおり、8月19日に、協議会員、JAぎふ、資材メーカー、県等32名参加のもと、本巢地域のほ場巡回及び滋賀県の(株)グリーンちゅうずへの視察研修を行った。

農業普及課は、移動時に本巢地域で実施している全量基肥肥料試験の途中経過について説明した。視察研修では、当法人から、主力品種である「みつひかり 2003」の取組み概要について説明を受け、栽培方法や品種特性、低コスト栽培等について、担い手の理解を深めることができた。今後確認される省力栽培の可能性を伝える予定である。

(地域支援第三係・岡田隆史)



【みつひかり現地ほ場視察】

■祝だいこん 羽島地区を対象に栽培研修会を開催

8月19日に、羽島地区の生産者を対象とした栽培研修会を開催し、農業普及課から、祝だいこんの栽培暦とだいこんに適用がある農薬の一覧表の説明をした後、良質な祝だいこんを生産するための栽培管理のポイント(ほ場の選定・準備、施肥、間引き、土寄せ、トンネル又はマルチ被覆等)について、パワーポイントで分かりやすく説明した。

また、市場や消費者など買い手側が、太くてボリュームのある祝だいこんを求めており、規格が昨年より大きくなることが予想されることも説明し、改めて基本的な栽培管理を確実にを行うよう指導した。

羽島地区の生産者は、1名増えて6名となり、は種は例年並みの10月12日頃から始める予定で



【栽培研修会の様子】

あり、農業普及課では、生育調査や栽培技術情報の提供などで支援する予定である。

(園芸産地支援第一係・近藤 勝)

戦略的な流通・販売

■えだまめ 第3回産地戦略会議を開催

8月13日、第3回えだまめ産地戦略会議を開催し、JAぎふ、岐阜市などの関係者に加え、部会代表役員も参加した。

岐阜市、JAぎふ、農業普及課が事前に調査し、西郷地内の作付け場を色塗りした地図をもとに、今後の優良農地の確保、農地集積の進め方などについて検討した。役員からは、部会として農地の確保と作付け希望者への紹介を進めるが、借受者の責務や要件を定め、適正な農地管理を行うことが必要であるなどの意見があった。

今後は、作付け適地のリストアップを行い、作付け希望者とのマッチングができる仕組みづくりを目指すことを確認した。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【戦略会議の様子】

■アスパラガス 第3回産地戦略会議を開催

8月21日、第3回アスパラガス産地戦略会議を開催し、産地振興上の各課題への対応策や実施時期などをまとめた「アスパラガス産地振興プロジェクト」について検討を深めた。また、産地戦略会議の最終成果として、産地拡大ビジョンの作成を進めることとし、柱立てや構成などについて検討を行った。

その後、JA全農岐阜の担当者から、アスパラガスの流通・販売について研修を受けた。岐阜市場での県産アスパラガスのシェアは3%しかない。岐阜県産の出荷規格は古いため、新規格に変更する必要がある。B品規格は加工業務用の需要がある。「量販店バイヤーこだわり品」の商品展開、地産地消や高品質志向が高いことなど、普段聞くことのできない情報を収集することができた。

今回の産地戦略会議では、具体的な活動方向が明確となり、産地拡大を図るための役割分担や今後の活動時期などについての意識統一が図られた。今後、農業普及課では、産地振興プロジェクトの進行管理を行うなど、支援を継続する予定である。

(園芸産地支援第一係・藤田文彦)



【戦略会議の様子】

多様な担い手の育成・確保

■(農)アグリかかみ(各務原市) ほたるの里八神集落営農組合(関市)を視察

8月10日に、(農)アグリかかみは、集落営農型法人の運営方法を学ぶため(農)ほたるの里八神集落営農組合を訪問した。

農業普及課は、アグリかかみが規模拡大に伴い、負担となっている小規模ほ場の管理方法などが学べる視察先の選定等を行ってきた。

視察では、経営概要を聞いたのちアグリかかみへの助言を求めるなど、活発な情報交換ができた。

今後、農業普及課は関係機関とともにアグリかかみのほ場管理の省力化について助言、支援していく。

(地域支援第二係・森 俊彦)



【情報交換会の様子】

魅力ある農村づくり

■かき かき農家の狩猟免許取得を支援

農業普及課から、JA網代支店管内のかき農家に対して、狩猟免許(わな猟免許)の取得を推進したところ、8月16日に羽島市文化センターで開催された狩猟免許講習会に、6人の生産者農家が参加した。8月24日には、当該参加者を集め、農業普及課、農業振興課鳥獣被害対策専門指導員から、9月に実施されるわな猟免許試験の申請書の作成支援を行うとともに、受験に向けた心構え等について指導した。今後とも、農作物への鳥獣被害軽減のため、農家の各種取組みを支援する予定である。

(園芸支援第二係・青山 哲)